

六、戊辰戦争第二期における関東、東北地方の主戦場六ヶ所における、戦傷患者の横浜への移送方法を調査した。その結果、今回のような船舶(英国船を含めた運送汽船)による移送は特別であったと考えられた。一連の調査研究において新発掘と云える移送方法は、和船による壬生―江戸間の黒川・江戸川移送(或は利根川境町―東京間の江戸川移送、那須堀越―那珂湊間の那珂川移送(或は磐城小野―平間の夏井川移送)の知見であった。ただし、カッコ内は裏づけを欠く。

なお、本誌第四十四巻一号一五一頁下段の最後の行に、壬生の一件記事をのせたが次の如く訂正する。『城の東方を流れる思川の支流黒川を和船(高瀬船)で下れる云々。』

七、今回の研究に際して、白河城内南面の西側に、土佐藩の病院を图示した中城家文書のコピーを、丹野美子氏よりいただいた。これも新知見であった。

(平成十年三月例会)

江戸の考証医家

小曾戸 洋

考証学は中国清代に隆盛をみた学問方法で、文献資料を博搜吟味し、客観的事実に基づいて過去の史実・事物の真相を

理を究明しようとするものであった。研究対象は広範な分野に及んだが、清朝における考証学は医学に関して十分な成果を挙げるには至らなかった。これに対し、清朝考証学を受容した日本ではとりわけ医学の分野で考証学派の研究が大きく花開き、いくつもの著述として結実した。

中国における学医のほとんどは、科挙に及第できずして医に転じた者であり、医学の著述を遺した名医は、学者としては亜流に属していたといつても過言ではない。一方、日本で幕府医官や藩医といった公職の身分にあった医家は基本的に世襲の者で、上流階級にあった。加えて文献資料の豊富さという点でも恵まれていた。散佚の多かった中国に比べ、彼らは質量ともに中国をはるかに凌ぐ文献資料を手にすることができ、それによって業績を獲得しえたのである。中国の場合とはまったく逆に、江戸の医家達による考証の学は医学の枠を越え、経史ほかの漢籍、また国学にと広い分野に及んだ。たとえば幕末の漢籍書誌学の精華『経籍訪古志』は江戸の考証医家によって編まれたものである。以下、江戸の考証医家に属する主だった人物の略歴と業績について述べる。

目黒道琢(一七三九―一七九八)は松平定信の信任を受け、躰寿館で長年教授をつとめた江戸考証医学の開祖である。

多紀元簡(一七五五―一八一〇)は江戸医学館の主宰者で、医学における考証学の基盤を固めた。

鈴木良知(一七六一―一八一六)は目黒道琢の学風を展開した。

伊沢蘭軒（一七七七〜一八二九）は考証学的著作は少いが、優れた後進を育成した。

藍川玄慎（？〜一八二四）はほとんど無名であるが、いくつもの考証学的著作を遺している。

多紀元胤（一七八九〜一八二七）は父元簡の跡を継ぎ、いくつかの著作をなした。

多紀元堅（一七九五〜一八五七）も父元簡の学風を承け、さらに研究を進展させ補充した。門弟を育てた業績も大きい。

小島宝素（一七九七〜一八四八）の校勘の学は精密で、書誌学に長けた。

海保漁村（一七九八〜一八六六）は元堅や宝素の業を助けた。喜多村直寛（一八〇四〜一八七六）は独自性の強い研究をなした。

渋江抽斎（一八〇五〜一八五八）は校勘学・目錄学に通暁した。

森立之（一八〇七〜一八八五）は先輩・同僚の業績を受継ぎ、開花させた。その遺業は考証学者として最も高く評価しうる。

山田業広（一八〇八〜一八八二）は臨床家であったが、著述の数も多い。

堀川舟庵（？〜？）は無名の人であるが、元堅に従って研鑽を積んだ。

伊沢柏軒（一八一〇〜一八六三）は著述は少いが、医学館の研究に貢献した。

小島春沂（一八二九〜一八五七）は父宝素の学を継いだが、

早逝した。

伊沢棠軒（一八三四〜一八七五）は榛軒・柏軒の学風を受けた。

森約之（一八三五〜一八七二）は父立之の学問を継ぎ、将来が期待されたが、父に先立った。

幕末とりわけ嘉永安政期、江戸医学館の学術組織としての結束力と水準は、かつての日本医学史上に類のないほど強固で高度なものであった。しかし、悲運なことに安政末から明治初期にかけて多くの逸材が相次いで世を去った。最後までその学統を担った森立之が没した明治十八年当時、幕末考証医学の真価を理解し、必要性を求める人は日本にはいなかった。むしろそれに瞠目したのは楊守敬をはじめとする清朝の学者であった。楊は、森立之ら日本の考証医家の博識ぶりは中国医家のとうてい及ぶところではないと絶賛した。

以後、日本の考証医家のなした業績は、本家中国に還流しはじめた。日本では明治の末頃から漢方医学は復興の兆しをみせ、昭和戦後には大いに脚光を浴びるようになったが、幕末考証医学に再評価の目が向けられたのはこの二十年来のことである。現在中国へも続々と伝えられている。

今後の江戸考証医学の発掘、整理、研究が期待される。

（平成十年四月例会）